

ハッチョウトンボ

Nannophya pygmaea

兵庫県：B

環境省：—

種の概要

腹長10～13mm、後翅長13～16mm程度。未熟な♂は橙色に黒色斑を有するが、成熟すると赤化する。♀は黒色地に淡黄色と褐色の斑紋を有する。翅は透明で、基部は橙色となる。丘陵地から山地の丈の低い植物が繁茂し、浸出水のある開放的な湿地や高層湿原に生息し、幼虫は水底の泥に潜っている。成虫は5月～10月に見られる。



写真提供：青木典司

国内分布

本州、四国、九州

県内分布記録

神戸市、姫路市、明石市、西宮市、芦屋市、相生市、豊岡市、加古川市、赤穂市、西脇市、宝塚市、三木市、小野市、三田市、加西市、丹波篠山市、養父市、朝来市、宍粟市、加東市、猪名川町、多可町、神河町、太子町、上郡町、香美町

選定理由

人為性		特殊生息環境	学術性		
個体数激減	生息環境激変		分布が極限	分布の限界	希少
	○	○			○

特記事項

多くの生息地が、公園や施設内に取り込まれた湿地で、人為的に保護・管理が行われている例が多い。純粋な自然生息地の多くは消滅した。日本最小のトンボとして注目を浴びやすい種で、保護意識が強く働き、管理や監視の目も行き届いており、現状では直ちに県内絶滅の危険性はない。

保護上の留意点

湿地の乾燥化に注意する。